



富士橋・親柱④

# かけはし

第190号  
2024年3月発行

発行：峡南教育事務所  
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鵜沢771-2  
TEL:0556-22-8154  
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 南部町役場分庁舎



教育委員会は1階です

### 峡南地域教育推進連絡協議会 第二回理事会（書面開催）

令和六年度峡南地域教育推進連絡協議会第二回理事会が、書面開催として行われました。

・令和五年度事業報告

・令和五年度決算報告

・令和六年度役員

・令和六年度事業計画

令和六年度教育相談リーフレット以上、五つの議案について地推協役員・理事の方々に書面表決書を提出していただき、満場一致で賛成を得ることができました。なお、教育相談リーフレットにつきまして、昨今の小中学校における心の悩み等に新学期当初から対応できるように、令和六年度からは、四月の上旬に各学校への配付を行えるよう、先行決議していただきました。来年度も、関係団体と協力し、地域の皆様と共に学び場を提供してまいります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

### ことぶき勸学院活動実践全体発表会

一月二十六日（金）、山梨県立文学館講堂において、県内六教室の一・二年生約二五〇名が一堂に会し、山梨ことぶき勸学院活動実践全体発表会が行われました。各教室の二年生が、自分たちでテーマを決め、様々な探究活動を行った内容を代表者が発表しました。ようとする中、年齢に関係なく各教室、山梨県内や地元の歴史、文化、自然といったことをテーマとして取り上げ、一年生の段階から調査を始めたたり、現地を訪問したりしながら、発表内容を吟味し、パソコンのプレゼン

#### 目次:

地推協 第2回理事会	1
ことぶき勸学院 活動実践全体発表会	
天板付け替え作業 増穂南小学校	
ことぶき勸学院 峡南教室2年発表	2
ことぶき勸学院 峡南教室2年発表	3
峡南地域の伝統工芸を学ぶ 篆刻体験：栄小学校 卒業証書製作：市川小学校	
身延高校総合学科発表会	4
身延町学校給食センター	
1年間のお礼	

#### 各教室の発表タイトル

- 甲府A：山梨における縄文遺跡を訪ねて
- 甲府B：武田家にまつわる旧跡に光を当て次代に繋げる
- 中北：徳島せぎの歴史と現状
- 峡南：山梨が誇る『西嶋和紙』の魅力
- 南都留：郡内地方の発展に貢献した人々
- 北都留：カルタづくりを通して地域の歴史、文化、自然を探る

### 天板付け替え作業（増穂南小学校）

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられて、様々な日常がコロナ禍以前に戻りつつある1年であったと感じています。しかし、インフルエンザも含め、時折、感染症の増加が話題となり、学級閉鎖等の措置がとられた学校も数多くありました。来年度以降も必要な対策をしっかりと行っていきましょう。

二月二十八日（水）、増穂南小学校において、令和六年度の新入生が使用する学習机の天板を付け替える作業が、六年生児童二名によって行われました。この作業は、学校林活動の一環として、昨年度から行われています。今回使用した天板は、二年前に増穂南小学校の学校林から伐採した檜を約二年間かけて乾燥し、加工したものを使用しています。初めに、スナタ製作所の若林さんから天板のできる過程を学んだ後、PTA会長武居さんにも指導していただきながら、一人一つずつ、古い天板から新しい天板へと付け替える作業を行いました。参加した児童からは、「初めての付け替え作業で難しかった。新入生は、六年間使うことになると思うので、大切に使うつもりです。」という感想を聞くことができました。





# ことぶき勸学院活動実践発表会 峽南教室二年生 『山梨が誇る西嶋和紙の魅力について』

峽南教室では、峽南地域の主要産業である製紙業に着目し、長い歴史と伝統を誇る手漉き和紙にスポットを当て、山梨が誇る西嶋和紙の魅力について、テーマとして発表を行いました。

甲州和紙のブランドとして、身延町の西嶋和紙、市川三郷町の市川和紙があり、どちらも貴重な歴史と文化を継承して、今後は西嶋和紙を中心に調査研究を行いました。プロセスとして直接「見る・触る・聞く」ことを基本として、手漉き和紙の技法と製品製作を、西嶋和紙の里において実体験するとするとともに、製紙会社の山十製紙の工場において直接生産ラインの詳細を取材しました。

市川和紙においては地場産業として発展して来ましたが、現在は機械化の進展によって手漉き製法は一社のみとなっています。また、西嶋和紙においては、江戸から明治にかけて広範囲な地域産業として発展して来ましたが、現在は西嶋地区のみとなっています。こちらは現在も伝統的な手漉き製法を主として継承しています。

## ・甲州和紙の歴史について

起源としては、市川和紙のほうが古く約一二〇〇年前の平安時代、甲斐源氏の発祥当時に始まったとされています。西嶋和紙は約四五〇年前の戦国時代、修善寺紙の製法を伝授されたのが最初です。それぞれ武田家、徳川家の御用紙として奉納を許され、西嶋において



山十製紙見学

は信玄公から特別なお墨付きとして御朱印を賜っています。西未(にしひつ



”西未“御朱印

## ・西嶋手漉き和紙の製造工程

原料は、「コウゾ」や「ミツマタ」などの木や、「稲ワラ」や「古紙」などになります。ちなみに一万円札などのお札の原料は「ミツマタ」です。加えて、繊維質のものであれば原料にできるということ、いろいろなものが用いられています。例えば「バナナの木」や「琵琶湖の葦」も原料になっています。葦は湖の環境改善のために定期的刈り取る必要がありますが、日腐ったり、二酸化炭素の発生源となっていました。そこでこれを紙の原料として活用することでコクヨの高級ブランドノート「リエデン」を創り、商品化されました。この考えがさらに広まり、『サツマイモの茎』『市川三郷町のハンさんの桑』や『焼

き鳥の竹串』『ピアノの廃材』まで、本当に様々な原料が活用されています。こうした原料はまず、アルカリ性の液である苛性ソーダを加えて煮て、寝かし、その後、繊維を叩いて、漂白し、紙の元「パルプ」にします。かつては手作業でやっていた部分ですが、今では西嶋地区の組合で共有して機械化されています。多くの機械で効率よく行っています。最後に、それぞれの商品に必要なが、特に注目したのが地球釜です。直径五mもある大きな球体の釜です。この中で、原料や薬品などを混ぜて、蒸気で熱処理でき、大きな製紙工場と比べて、様々な原料や配合を扱うことができることから、全国、海外からも様々な原料が送られてきて、今や予約も数か月待ちとなっています。



地球釜

紙がくっつきやすいよう添着剤を入れ、濃さを整えて一定の厚さに漉きまき、乾燥させます。紙がくっつきやすいよう添着剤を入れ、濃さを整えて一定の厚さに漉きまき、乾燥させます。紙が開発され、ア

紙が開発され、ア



防水性バッグ



・青洲高校の取り組み

青洲高校商業科生徒の皆さんが、今の環境問題を考えコンクリート工場から出る強いアルカリ性廃液に着目し、和紙製造工程に活用できないかというアイデアを製紙会社に提案、両者のコラボレーションによる研究を進めてきた結果、実用化に結び付く大きな成果を上げました。

実用化の成果として、従来この廃液は強いアルカリ性のため、中和処理の後に産業廃棄物として処理されてきましたがこの活用によって環境問題の解決につながりました。また研究工程で製造した和紙を使って、サウナブームにマッチした「サウナハット」を製品化しました。これらの取組みは地場産業の発信に大きく貢献しています。



サウナハット

この研究成果は全国高等学校生徒徒商業研究発表大会において高く評価され見事「最優秀賞」の栄冠に輝きました。さらに、文部科学大臣賞、産業教育振興中央会賞も受賞しています。

・地域活性化活動

地域住民の皆さんとの連携によって、「冬のイルミネーション飾りつけ、夏の西嶋和紙灯籠」が毎年盛大に開催されテレビや、SNS等で紹介されています。

・後継者問題

現在四軒ある西嶋の手漉き和紙工場はどこも後継者がいませんが、山十製の笠井社長は、伝統を大切にするとともに、様々なことにチャレンジし、新たな道を切り拓いています。

峡南地域の伝統工芸を学ぶ

篆刻体験(栄小学校)

一月一二日(金)、栄小学校で篆刻(てんこく)体験が行われました。この体験は、山梨県印章店協同組合が行っている『学生等に対する伝統的工芸品教育事業』の一環として山梨県内の多くの小学校で実施されています。

この日は、市川三郷町から甲州手彫印章伝統工芸士の望月煌雅さんを講師に迎え、四年生一名が体験しました。初めに、甲州手彫印章の歴史、はんこを使う意味、漢字の成り立ち、はんこ用に変換した文字(印鑑は、唯一無二である必要があるため、同じ文字でも表し方が何種類かある)、製作工程、彫り方の種類、印刀(いんとう)の使い方といった様々なことを学んだ後で、実際にはんこを彫る体験が行われました。

講師が、あらかじめ蠟石(ろうせき)と呼ばれる石印材に名前の一文字を書きしたものを用意し、児童は、印材を印床に固定し、印刀を使って慎重に彫り進めていきました。石印材の堅さや、初めて使う印刀に戸惑った様子も見られましたが、講師の



少しずつ慎重に彫る

手ほどこを受けながら、徐々に扱いにも慣れ、最後まで真剣な眼差しで製作に取り組みました。

〈児童の感想〉

・地道な作業が好きなので楽しかった。できあがったときの達成感があった。角のところや丸いところ、細かいところなど難しいところもあって手が疲れたけれど、きれいにできてよかった。

※伝統的工芸品とは：伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づき、経済産業大臣の指定を受けた工芸品のこと。山梨県では、「甲州印伝」「甲州水晶貫石細工」「甲州手彫印章」の三つが指定されています。

卒業証書制作(市川小学校)

市川小学校では、六年生が卒業証書の制作を通じて、地元の伝統工芸である和紙の製造について学ぶ体験授業が二日間にわたって行われました。

一月一九日(金)、市川三郷町の和紙の歴史について学んだ後、「ちりとり」と呼ばれる作業を行いました。「ちりとり」とは、原材料である三椏(みつまた)の幹を煮

る際に、混ぜた皮や筋などの不純物を取り除く作業です。この作業をしつかりと行うことで、きれいな紙に仕上がります。児



細かい「ちり」も見逃さない

童は、より良い卒業証書の完成に向けて、ピンセットや竹串を使って、小さいものでは一ミ程度「ちり」を丁寧に根気よく取り除きました。

また、一月二六日(金)、市川手漉き和紙「夢工房」において、和紙研究会の方々の指導を受けながら紙漉体験を行いました。一枚目は、研究会の方々の手を借りながら漉きましたが、二枚目は、自分の力だけで行いました。

この日に製作した紙は、今後、乾燥等の工程を経て、自分自身の卒業証書として卒業式に手渡される予定となっています。

〈児童の感想〉  
・市川三郷町の伝統工芸である和紙を作ることの難しさを身をもって体験できた。卒業が近づいてきていると改めて感じた。

・三年生の時にも、「はがき作り」で紙を漉く体験をしたが、今回の卒業証書製作では「ちりとり」も行ったことで、その作業の大切さがわかった。

※肌吉紙：市川三郷町の和紙は、平安時代(約一〇〇年前)から製造が始まったとされており、丈夫で、汚れがなく白い紙をたくさん製作できたことにより、後に武田信玄や徳川家康に品質の良さが認められ、特に、家康が江戸幕府で使用する紙に、肌吉紙(はだよし)がみ)と言う名前を付けたそうです。



小刻みに振る



# 身延高校総合学科発表会

二月三日(土)、身延町総合文化会館において、第十一回身延高校総合学科発表会が開催されました。身延高校では、進学型総合学科高校として様々なキャリア教育を実施しており、その中心にある、「ドリームプロジェクト」として「夢の発見・育み・実現」をキーワードに、一年次から三年次にかけて自己実現を目指し学習や探究活動を行っています。その成果を各年次の代表者が発表しました。

一年次は「夢の発見」のテーマのもと、「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」などの授業だけでなく夏休みなどの長期休業も活用しながら様々な活動に取り組みました。主として夏休みを利用して実施した「職業人インタビュー」を通して、どのようなことを知り、また職業に対する考えがどれだけの深められたのかを三組四名が発表しました。



1年次生:夢の発見

二年次の「夢の育み」には、一年次の「夢の発見」と三年次の「夢の実現」をつなぐ役目があり、「夢の発見」が「夢の実現」まで到達することができるかどうかは、「夢の育み」次第であると言っても過言ではありません。二年次のハイライ

トの一つである三日間のインターンシップに参加した様子の中から、一〇〇%国産材を使用した合板工場や認定こども園、そして特別養護老人ホームで就業体験をした三組六名の生徒たちが「インターンシップで学んだこと」と題して発表しました。



2年次生:夢の育み

三年次は、一年次の「夢の発見」「二年次の「夢の育み」を踏まえて、生徒一人一人が各自の進路実現に向けて一年間取り組んできました。「総合的な探究の時間」では、進学希望と就職希望に分かれて、自分の進路に対して向き合い面接指導や小論文指導にも主体的に取り組みました。今回は二名の生徒が、どのようにして夢の実現へと繋げてきたのかを紹介し、そして、高校三年間で学んだことや感じたこと、また自分が成長できたこと、これからの展望などを発表しました。



3年次生:夢の実現

〈三年生発表生徒の感想〉  
 ※私は今回の総合学科発表会で「将来の道は一つではない」ということを多くの方に伝えることができました。また自信にもなりとても良かったです。そして、準備をするにあたって自分の高校生活の三年間を振り返り、改めて自分と向き合うことや身延高校の良さもたくさん見つけることが出来ました。この経験を活かして四月から社会人として頑張りたいです。  
 ※発表中に想定外のこともありましたが、自分の伝えたいことを全部伝えることが出来ました。高校生活最後に大きな役目を任せられ、不安でいっぱいでしたが、クラスのみんなからのアドバイスを活かしながら完成させることが出来ました。色々な人の協力のおかげで発表ができたので、感謝の気持ちでいっぱいです。三年間学んできたことがしっかりと今の自分に活かされているということを実感できた良い機会でした。

## 身延町学校給食センター

身延町では、学校給食の理念である「食を通して食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につける」という役割を念頭に置き、安全で清潔な「おいしい給食が作られる場



所」として身延町学校給食センターが新設されました。老朽化が進む中富給食センターと身延給食センターを統合し下山地区に整備、令和五年八月二十五日より供用が開始されています。徹底した衛生管理のもと、町内の四つの小中学校(身延清稜小・下山小・身延小・身延中)に、安全・安心で美味しい心のこもった給食が提供されています。

また、給食センターの厨房内は、衛生上、部外者の立ち入りができなくなるため、竣工前に町内の小学一・二年生を対象として厨房エリアの見学会を実施しました。建設工事の様子を動画で視聴したり、施設の概要説明を聞いたりした後、施設内外を見学し、エアシャワーの体験なども行われました。



身延小児童による見学会

一年間、地域教育情報誌「かけはし」をご愛読いただき心よりお礼申し上げます。また、情報提供、取材へのご協力、誠にありがとうございました。

皆様の活動の紹介や、地域連携の一助になればとの思いで発行して参りました。これからも峡南地域の素晴らしさをお伝えしていきますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。